

古希を迎える自分の生き方

2月の半ば、高校の関東地区同期会の総会が都内で開催されました。長野県伊那北高校の11期生ということで、「伊那北」の「北」と「11」を漢字にして会の名前も「北士会」と付けられています。“サムライ”みたいでなかなか格好いいですね。

話題は「古希を迎えるこれからの生き方」に集中しました。8割近くが昭和15年生まれで今年70歳になります。当方は16年の“早生まれ”なのでまだなんとなく実感がないのですが、それでも近年は、多くの高齢者向けの紙面や本を読んできました。



その中で、希望を生み出し元気づけられた言葉を挙げてみます。（昨年4月の本欄でも「68歳の心意気」とのタイトルで自身の生き方を綴っていますが、今回は引用の紹介です）

- ゲーテが「若きヴェルテルの悩み」を発表したのは25歳のとき、その後「ウィルヘルム・マイスターの修業時代」「同遍歴時代」等を著述、その全集は143巻に及ぶ。そして世界文学の最高峰「ファースト」の総仕上げの執筆を開始したのは76歳のときである。このことを、先日、再会した76歳のゴルバチョフ元ソ連大統領に申し上げた。（聖教新聞 池田SGI会長）
- 幸福なんてない。人間は一生悩みの連続だ。そこで煩惱即菩提となる。文句をいう人は目標がないのだ。ともかく、使命感に燃えた人は強く凛々しい。仏法は勝負だ。自分との戦いだ。人生限りがある。永遠のためにどれだけの事を一生に残していくかだ。（同上）
- 昭和5年5月、浅野は83歳の老齢ながら、2～3年の旅程で欧米諸国への視察の旅に出かけた。これも老いを知らぬ壮挙である。（『野生の人々』城山三郎）
- 読書のおかげで、一生を10回も経験したような気がする。偉大な人々について読むことは、偉大な心に触れることである。（『ビジネスマンの父より息子への30通の手紙』同上）
- 自分の一生は「志」の持ち方ですべてが決まる。自分の「生涯目標」をどこに据えるかを常に問え。人生を大きくしてくれる友を持って、志を持って！（『人生の急所を誤るな』渋沢栄一、竹内均）
- やりたいと思ったときが一番パワーが充実している。“旬”のときだ。すぐに行動を起こせ！やりたいことが出てきたときに、思い切って身銭を切れば、それが自分の中で実になっていく。自分への投資だ！<もっとワルになれ>
- 「総表現社会」ともいうべき方向に進んでいる。だから「インターネットの世界に住む人」と「使ったこともない人」の間の溝は大きくなるばかりだ。（『ウェブ進化論』梅田望夫）
- 未来とは予測するものではなく、自分で創るものですから、明るく思うべきです。（朝日新聞 茂木健一郎）
- 特に後半期の人生は、自分の気持ちを優先させればよい。自分が楽しくて有意義だと思うことに時間を使う、わがまま健康法。「年寄りのすることなんだもの」、と開き直ってしまう。
- 80歳を過ぎてから私のたどった道こそ、複雑多岐にわたり、思いもかけない様々な出会いに満

ちていました。予想もできなかった創造的な生き方——88歳のとき「葉っぱのフレディ」のミュージカルの脚本を書き、演出や出演をした。(日野原重明)

- 発声することも健康によいので「カラオケ」も勧める。ゴルフでは全コース歩く。大学での講義も4階まで階段を一気に駆け上る。91歳から始めたゴルフがどこまで上達するかという記録を書いてやろうと思っている。(同上)

<NHK『百歳 バンザイ!』から>

- ジョギングを始めたのは70歳になってから、ラジオ体操も毎朝6時から。
- 「気が変だ」といわれるぐらいでないと物事は完成できない。
- 102歳——届く手紙に返事を欠かしたことがない。
- 102歳でバイオリンに夢中になる
- 101歳でイタリアの歩道をまっすぐに歩く足取りの軽快さ。
- 105歳、朝8時、台所に立ち朝食を作る。孫たちに食べさせる料理も作るのが楽しみ。
- 100歳の手習いで野菜作り。必要な野菜のほとんどは自分で作る。50坪の畑を耕す。
- 101歳で読書にふける。2週間に5冊、図書館から借りてくる。



定年後に訪れた世界文学紀行の舞台——左からスペイン、アメリカ、パ

ナマ、カナダ、エジプト、イタリア

どれも、夢にあふれた力強い生き方が伝わってきます。私も死ぬまで働き、ボランティアでも社会に貢献していくつもりです。「人のお世話になるよりも、お世話をする方が元気でいられる」とも言われます。できればそうありたい。人間は自分を表現できる場があることが生きがいに通じます。私は現役時代に語学(英語・スペイン語)、文章、写真の訓練を受ける機会に恵まれました。ありがたいことですが、その力を最大限に生かしていく道が「世界文学紀行」だと思っています。

定年後の私の名刺の肩書きは「ドン・キホーテを生きる自愉人」。ゆるがぬ信仰を基軸に、どこまでも“見果てぬ夢”を追って自ら愉(たの)しみ、周囲も愉しくしていく人生を、と思っています。